



♪学期に入って一回目のおおきいけみの日、マラソンの準備をしていた時のことです。いつものように体操をして各学年ごとに走る位置に着いていた時、おおくりさんは自分たちでスタートの準備をしていました。おおくりさんは大人がいなくても大丈夫だね」と声をかけると「うん! だいじょうぶ!」と全員からの声。木公ほ、くりさんスタートし時間差でくりさんがスタート。それからおおくりさんの方へ向かうとすると「大人がいなくても大丈夫だね」と声をかけると「うん! だいじょうぶ!」と全員からの声。「そうだね! だよ、よほほ〜」と背中を向けて進んでいると「1.2.3.4...」と自分たちカウントし、スタートしてしまっています。この「大人がいなくても大丈夫!」が生活の中に本当にたくさん見られすぎて「大人はいらない」と言ってくるわけではありません。子どもたちから「私たちにまかせて!」「自分たちで考えよう!」という気持ちを承知しています。例えば女の子のおままごとのそばにいて女の子同士のキツク言葉のやりとりを聞いてしまう時があります。「その言葉かけはきついな〜」と思いつつも声をかけず耳だけ澄ましています。すると「ちょっと、今の言い方傷つくかも...。」と一人が伝えています。「えっ? あ、そうだね...」するともう一人が「でもこうしたかったんだよ。こういう言い方したらどうかな?」と子ども同士のやりとりをしています。その時にそこにいる大人が声をかけてしまうより、とじに届きます。仲間のひとりとしてその場にいと子ども同士のやりとりに出会えることがたくさんあります。ちょっと難しいやりとりの時は耳を澄ませ見てはいるけど見ていないふり、聞いてはいるけど聞いていないふりをします。するとちょっとずいこともしまじ、ずいことと言います。でも困っている人がいない時はスルーします。大人がいろいろ指摘するよりも友だちに直接言われた方がとじに届くはずと思いつているから。子どもたちのやりとりをみていると大人を必要としている時や大人が必要な瞬間が少なくなっていると感じて、こういった事を積み重ねている生活を毎日送っているのだから、いつのまにか私達もこの人たちに信じてくれるようになることに気がつくのです。大人と子どもの距離感を保つには何か大切なことがあると日々考えています。その根底にはやっぱり「信じてあげよう」という気持ちがあります。スタッフとしてぴっぴの子どもと関わる時だけでなく、母として自分の子どもと関わる時にも感じることです。この子のすべてを知っている、知ってはいなくてもいい、そして自分の知らない我が子の一面もある。そして子どもには子ども世界があってそこで自分で考えて、行動して、友だちに指摘されて、気がきく。時には仲良く、時にはケンカして... 嫌なこともして嫌なこともして... 毎日毎日ドラマがあるのだ。自分で解決する力は必ずある。でも話を聞いてほしい時は必ず「あのね、お母さん聞いて...」と声をかけてくれる(はず)だから信じて待つ。そう意識してしまっています。でもある時自分の子どもが人との関わりで困っているかもしれないということをよきから耳にしてしまいしばらく泣いてしまいました。ついに「あのね、お母さんこんなこといっしょにしているんだけど...」とこぼしてしまっただけです。すると「お母さん、そんなこといっしょにしていたの? ほほほ大丈夫だよ。」という返事。「そっか... なんだ、あなたが一人になっても大丈夫だよ。一人も楽しい時あるでしょ?」という返事。しまった... この子を信じていると言っておいて自分で解決する力はあると信じていると意識してしまっただけなのに余計な事を言ってしまった... と反省しました。自分に似ているところがあるけど自分もつらかったことのある壁に当たっている、何とか困難を回避してあげたいと思ってしまったのです。でもそんなこと必要なかったのです。本当に困っている時は「あのね、お母さん聞いて...」と声をかけてくれるはず。大人が解決できることなんてないのに余計なことをしてしまいました。子どもにとって大人が必要な時はほとんどないのかもしれない... とこの時感じたのです。

ぴっぴの保育と子育てを重くつ、その時大人として大人がすべきことを改めて思いなおすことが出来ました。今、この時期、これからぴっぴを築いていく人たちの育ちをじっくりと感じます。「大人がいなくても大丈夫!」という声を逃さないように毎日を丁寧に過ごしてほしいと思います。

美穂



♪ほろぴっぴ。アイヌ語で「おおきいなる、おおきい」を意味する「ほろ」+「ぴっぴ」。ぴっぴの卒園児も在園児の兄弟の希望者が、毎月木、土曜日に8時半から16時半まで鳥井原の森でたのび遊び、関わりあっています。ぴっぴで共に過ごした子どもたちやそのご家族とのつながりをベースに小学生を対象とした育ちあう場をつくりたいという思いから、ほろぴっぴは4年前に誕生しました。ちょうどぴっぴで4年目を過ごして小学生になった子の学年である今の4年生が小学校に入学した2012年4月からスタート。それから4年が過ぎ、35名の小学生と1名の中学生が、ほろぴっぴの主人公として活動しています。

1月23日(土)、春からほろぴっぴに参加することを希望する人たちの体験会の日。8人のおおくりさんたち、1つもと変わったぬいぐるみ、1つもと違う場所の見慣れない人も沢山いるほろぴっぴにやってきました。駐車場まで車から降りた時の表情は、みんな笑顔だけれども、やはりおどろきや緊張している雰囲気。駐車場から荷物置き場までの長い道のりを前へ一歩踏み出すのを、おどろきや緊張でためらった。長いな〜コン!と妙に大きな声を出して笑い。おおくりさんたちが高学年になって「見上げてくらくらした大きな人」でしよう。そんな雰囲気の中で圧倒されたから、ぴっぴと一緒に過ごした人の姿を見つめるとほっとした様子。卒園生で3年生になつた大空さんに「あ! なつかしい〜 俺がおおくりの時にこんなぐらいたったよな!」と声をかけられ、うん! という返事。ぴっぴで慣れた顔でいる「崖サバリ」が宿まり、俊林、行人、悠太、朔次朗は、小学生と一緒に思いっきり雪まき隊になり、行人「すごいよ! ぴっぴの崖よりすごいよ!」と大興奮し、俊林「俺こそ無理だよ!」と1つもの俊林のまふ。

年長児と、2年生合同の「おはようミーティング」では自己紹介。1、2年生と言いは、まほろくり時代に週5日同様に一緒に過ごした人たちが、ほろぴっぴに、沢山の人が注目を集めて、トキトキに声を出して当然でしょう。ところが、トッポウバッターの陽震が「あ、はいはい、よくお願ひします。」と、(か)り自己紹介すると、おどろきや緊張で「ooooです、よくお願ひします。」と続き、悠太は「中級部学校へ行こうははははは、よくお願ひします。」と堂々といっせつ。自由なあそびが始まると、ぴっぴと同じようにおどろきや緊張で「あ、はいはい、よくお願ひします。」と、兄弟がいる人たちは、そこに頼ることなく自分の時間を過ごしています。朔次朗と明日香は2人でビルドゥスを使いながら雪の家づくり。おどろきや緊張で、ぴっぴの様子と変わらない感じですが、そこに2年生男子2人が来て、お家と壊れておしゃべり... 朔次朗と明日香のその様子に、2年生男子も「また...」と淡い表情。こぼれお願ひ、歓迎も受けるようなこともあります。「わたし外人だから」「わたしも英語で話してる」という不思議な設定の2年生男子3人のこのあそびに、心算は一人で混じりあっています。陽震、理央子は1年生の遠春の先導で崖降り。川沿いの歩き「南の森」と呼ばれる場所まで探検。遠春にほろぴっぴの楽しいこと紹介してもらった。雪深、森を案内してもらいました。16時半までのほろぴっぴ。ぴっぴより2時間半も長い。お昼ご飯の後、たのびあそびもまだまだあそび時間は残っています。理央子「また、おやつも食べたいよ!」と長い一冊を満喫。週明け月曜日のおおきいけみの朝。「ほろぴっぴ、どうだった?」と声をかけると「たのしかったです!」「絶対ほろぴっぴに行く!」と明るい声で返ってきたのは言うまでもありません。

「おおくりさんたち、こんなふうに過ごすのかな...」と少し心配もしているのですが、一日通に卒園生に見守られていました。「ぴっぴ」という車輪でつながる異年齢の子もたち。そのあそびや肉けり姿を見守りながら、自分自身の信頼、他の人への信頼、自由というものに向かう姿勢... そんなことについて、あんなに考えてた一日でした。

(文中敬称略)

慎之介

お知らせ

ほこりっぽから: ひらびの森にやと たっぷり雪が降りました。いきなり積雪に子どもたちは大喜び。雪かきが間に合わず、たくさんの方のたくさんのお手伝い... 本当にありがとうございました。一日外が過ごしている子ども達の事は、野外保育を行っている園の中は 珍しいようです。

- ・ 保護者会 日時 2月3日(水) A.M. 9:30~
場所 バイブル・メインホール
- ・ えりにたいそう 2月17日(水)
身長計測 同上
- ・ 建材が不足している。ご協力をお願いいたします。
- ・ 今年度も じいんやさんの 団体登録代金 (2015.12月 ~ 2016.11月) を納入袋にてご請求させていただきます。よろしくお願いたします。
- ・ おおくりさんとスタッフだけの 冬のカップを 2/22(月) ~ 23(火) に行います。おおくりさんには、詳しいお知らせチラシを配布いたします。22(月) 23(火) ともに、通常の保育を行います。おおくりさん、松林さん、とんじりさんは、いつも通りです。
- ・ おおきくおの お料理日は 2/25(木) です。
- ・ 延期になっていた くりさん、おおくりさんの 電車の旅は 2/29(月) に行きたいと思っております。近くに列車があれば、子ども達とは話し合います。準備などは、チラシを再度お読みいただき、ご協力をよろしくお願いたします。
- ・ くり、おおくりさんの 追分散策は 2/1(月) (予備日 2/4) を予定しています。

ひらびの森の木の芽たち ~ 1月 コブシ 卒業 ~

今月の木の芽は軽井沢町の木にもなっている「コブシ」です。ふわふわの目玉の芽で冬の間もとても美しい姿です。早春にどの木よりも喋りかけて、真・目な花で春を上げます。私がコブシを知ったのは小学生の時。「春のくまたち」という神沢利子さんの童話でした。コブシを食べるクマたち。春を迎える喜びが満ちていて、とても大好きな印象的な話でした。短いお話なので、ご紹介したいと思います。

山にコブシの花が咲きました。くまのかあさんは冬ごもりのあなから出てはばかり、ニヒキの子どもは生まれはばかり。木のめ、草のめ、かあさんはおいしいものをさがします。空が明るくてまぶしくて、足のうらがくすぐる。たいて、子どもたちはくらくらわらいます。かあさんは木にのぼります。なんでよりすたんと。(ほう、もうあんまりにたかいとこ。青空にゆれるコブシの花をたべています。子どもたちにも「さあ食べ」とおとしてやります。子どもたちはもしやもしやハチャハチャ花を食べます。子どもたちの上に花は雪のようにおちてきます。たべあきた子どもたちは二んどはころころおもうご。かあさんはゆくり木からおりてきます。子どもたちはもうすぐ大きくなるでしょう。木のぼりをしひとりたべものを探さしよう。



おや、空にひとつ、たべのこしの花。それは白いひるのお月さまです。今は雪の中を眠るコブシとクマたち。また春に、コブシの花開く姿をみられますように。菜々鬼